

十勝の川の生き物「見る角度」ガイド ①

いろんな見方で

木に会いに行こう

十勝の川をフィールドとした総合的学習のために



川の周辺にはいろいろな木がある

木にはいろいろな見方がある

名前や種類がわからなくてもいいじゃない

少し近くに行ってみよう

あしたを創る 北の知恵
北海道開発局



帯広開発建設部

謝 辞

本冊子の作成にあたり多大なご助力・ご助言をいただいた太田昇氏（CONE・RACトレーナー）、財団法人 十勝エコロジーパーク財団、平林照雄氏、福岡イト子氏（財団法人 日本私学研究所）、吉原利之氏（アイウエオ順）に心より御礼申し上げます。

※ CONE：自然体験活動全国協議会、RAC：川に学ぶ体験活動全国協議会

この冊子では個々の生物を紹介するのではなく、生物に対するいろいろな「見方」を紹介しています。総合的学習では決まった答えを求めることよりも、「自分で課題を見つける力」「自分で考える力」「自分で調べる力」を付けることが大切だと考えるからです。

総合的学習に限らず、それ程生物に興味がない人や、興味があっても一般的な図鑑からでは取っつきにくい人にも手に取っていただきたいと考えています。

29ページに、いくつか関連した書籍を載せてあり、また各項目ごとに参考にした文献を載せてあります。くわしく調べる際の手がかりとしてください。

十勝の川の生き物「見る角度」ガイド・シリーズ

- ① いろんな見方で **木に会いに行こう**（本書）
- ② いろんな見方で **草花に会いに行こう**
- ③ いろんな見方で **魚や水中の生き物に会いに行こう**
- ④ いろんな見方で **鳥に会いに行こう**
- ⑤ いろんな見方で **トンボやいろいろな生き物に会いに行こう**
（チョウ・両生類・爬虫類・哺乳類）

身近な木から見方の入門

木のいろいろな見方を紹介

河原によくある木-ヤナギの仲間 ヤナギってどんな木?・・・2

見た目で分けて3つのヤナギ・・・2 「普通のヤナギ」のいろいろ・・・2
花は地味?とんでもない・・・3 クワガタの集まる木・・・3 川岸を守り、魚を育てる・・・3

河原によくある木-ドロヤナギ① ドロヤナギを見つけよう・・・4

木の皮の感じ-白い・・・4 木全体の形-幹が1本立ちする・・・5
枝先の感じ-おおざっぱな枝ぶり・・・5 葉っぱの感じ-裏が白っぽい・・・5

河原によくある木-ドロヤナギ② もう少しドロヤナギをよく見ると・・・6

冬芽-大きくて上向き・・・6 実と種-綿毛にのせて種を飛ばす・・・6 集まる虫-コムラサキの幼虫・・・7
生える場所-川際の砂利原・・・7 アイヌ伝説では-化け物の生まれる木・・・7

使い道を知る・・・8

食べる-自然のエネルギーを体に・・・8 葉として-用法用量を知って使うべし・・・8
染め物-キハダの黄色は尊い色・・・9 その他、材木として、神事のために・・・9

葉を見る・・・10

鳥の羽根のような葉-これでも1つの葉・・・10 大きなギザギザの葉・・・10
毛の生えた葉・・・11 手のひらのような葉・・・11 そのほかこんな葉も・・・11

実や種を見る・・・12

羽のついた種-少しでも広がるために・・・12 果実をつける-食べてもらって広がる・・・12
クルミやドングリ・・・13 綿のついた種・・・13 そのほかこんな実や種も・・・13

木の形を見る・・・14

1本の幹がまっすぐ伸びる木・・・14 枝先の感じ-ゴツいものや細かいもの・・・15
そのほかこんな形の木も・・・15

花を見る・・・16

花らしい花-林を彩り虫を呼ぶ・・・16 ヤナギの花-目立たないが春一番に咲き出す・・・17
オスの花・メスの花、オスの木・メスの木・・・17

冬の枝先を見る・・・18

変わった冬芽・変な「顔」・トゲ・毛・対生・・・18

生えているところを見る・・・19

水際はヤナギ・・・19 わずかに高い石原にケショウヤナギやドロヤナギ・・・19
ドングリは水から離れた高いところ・・・19

虫・鳥・動物を見る・・・20

クワガタの集まる木-ハルニレ・ヤナギ・・・20 チョウ-幼虫は決まった葉をえさにする・・・20
キツツキと木-虫食いの木や枯れ木も大切・・・21 リスはクルミの管理人? 召使い?・・・21

さわってみる・・・22

さわってわかることもある・・・22

においを嗅ぐ・・・23

花のにおい-エゾノウミズザクラ・・・23 葉のにおい-エゾニワトコはちょっと嫌なにおい・・・23
実のにおい-キハダの実はミカンのにおい・・・23

植えてみる・・・24

クルミやドングリを植えてみる・・・24
子どもの木で小さな林づくり・・・24 苗を作ってから植える・・・25

伝説を知る・・・26

言い伝えの中にある真実・・・26

名前を知る・・・27

キハダ-皮の内側が黄色いから「黄肌」・・・27

もっとくわしく知るために・・・28

さくいん・・・30

河原によくある木ーヤナギの仲間

ヤナギってどんな木？

ヤナギは河原で一番ありふれた木です。でもかえって、あまり知られていないようです。
ヤナギにもいくつか種類があります。よく見れば姿形も違い、生き方も異なります。また、オスの木とメスの木にも分かれているのです。少し目を向けてみましょう。

✂️ 見ただ目で分けて3つのヤナギ

ヤナギには、①葉の細い「普通の」ヤナギ、②葉が広いヤナギ、③まっすぐ幹が伸びるヤナギ、があります※。



オノエヤナギ。細い葉のヤナギ



エゾノバコヤナギ。
葉が広いヤナギ



ケショウヤナギ(左)とドロヤナギ(右)。
幹がまっすぐ伸びるヤナギ

※：分類上はもう少し細かく厳密に分かれます

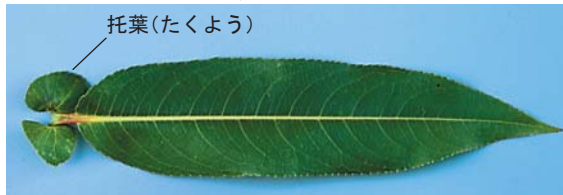
✂️ 「普通のヤナギ」のいろいろ



オノエヤナギの葉。ギザギザが丸っこく縁が裏側に巻く



エゾノキヌヤナギの葉。裏に絹毛がビッシリで輝く



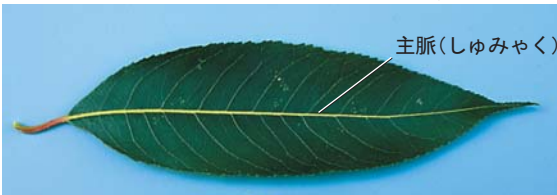
エゾヤナギの葉。根元の托葉(たくよう)がかなり後まで残る

細い葉をもつ普通のヤナギにも、いくつかの種類があり、葉の形が異なります。

一番多いオノエヤナギの葉はギザギザが緩やかな波のよう、エゾノキヌヤナギの葉の裏はきらきら光る。また、エゾヤナギの葉の根元には小さな葉(托葉)が遅くまで残ります。



エゾノカワヤナギの葉。ギザギザが細かく、細長い



エゾヤナギの葉。ギザギザが細かく、主脈が盛り上がる

✂ 花は地味？ とんでもない ✂



オノエヤナギの雄花(左)と雌花(右)

ヤナギにはオスの木とメスの木があります。オスの木には雄花(雄しべ、花粉がある)が、メスの木には雌花(雌しべがありタネをつける)が咲きます。小さくて目立ちませんが、開いたヤナギの花はとてもきれいです。



エゾノキヌヤナギの雄花(左)、雌花(中)と実が開いてできたタネと綿毛(右)。

✂ クワガタの集まる木 ✂



ヤナギは北海道の木の中で、最も早く花を咲かせます。蜜を吸う虫にとって、早春のヤナギの花は大変貴重です。また、夏にはクワガタが樹液を吸いにやってきます。さらに、コムラサキやヒオドシチョウは、幼虫の時ヤナギを食べて育ちます(→p 7)。

コクワガタ。ヤナギの木をけとばすと、クワガタが落ちてくることがある

✂ 川岸を守り、魚を育てる ✂

細い葉のヤナギは、枝を切って土に埋めるだけで根付きます。また、湿った場所を好んで、早く育つので、川岸を守るために植えられることがあります。

また、春から秋にかけて葉を生やしては落とし続け、水の中の虫にずっと餌を与えます。川におおいがぶさってかげをつくります。こうして魚に対しても食べ物とすみかを与えているのです。

アイヌ語で、ヤナギは「スス」と言われ、神の儀式の道具に用いられたり、サク漁のとき、サクの頭をたたく棒にも使われました。

秋早く、オノエヤナギの葉が黄ばみ、散りつくすころ、シシヤモが群をなして川をさかのぼってきます。こうしたことから、葉の形と魚の形が似ているからか、アイヌ語ではシシヤモのことを「ススハム(ヤナギ・葉)」「ススハムチエプ(柳葉・魚)」と呼ぶといわれています。伝説にも、ヤナギの葉が魚になった、というものがいくつかあるといえます。

「シシヤモ」という言葉もこの「ススハム」から来たと言われています。

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
 「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
 「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
 「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991
 「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
 「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎 (社)北海道治山協会 2001
 「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会
 「生育環境別 日本野生植物館」奥田重俊 編著 小学館
 「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981
 「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
 「アイヌ植物史」福岡イト子 草風館 1995
 「天然林施業Q&A」石塚森吉ら 北方林業会編 1988

ドロヤナギを見つけよう



ドロヤナギ

ヤナギの仲間の中でも、ドロヤナギ（ドロノキ）とケショウヤナギは、少し変わっています。

中でもドロヤナギは樹木全体の中でも、個性がはっきりしている木です。

ここではまず、ドロヤナギの特徴をいくつか覚えて、何となく見分けられるようになりましょう。



ふつうのヤナギ〈オノエヤナギ〉



ケショウヤナギ

木の皮の感じー白い



ドロヤナギの樹皮

ドロヤナギの特徴は、何と言っても白いことです。若い頃は非常に白く、年を取るに従って灰色っぽくなりひび割れが多くなっていきます。

河原で白っぽい木を見つけたらとりあえず「ドロヤナギだ」ということにしておきましょう。

（もしもシラカンバ（シラカバ）だったら…ごめんなさい。ドロヤナギは、シラカンバのように、うす皮がむけやすくありません）



若いドロヤナギ



シラカンバ



カシワ



ハルニレ



ケショウヤナギ

❖ 木全体の形 — 幹が1本立ちする ❖

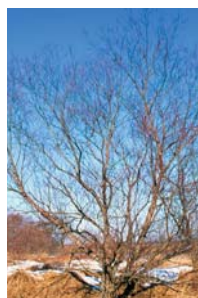


ドロヤナギの樹形

カラマツのように、^{みき}幹がまっすぐ^の伸びるのもドロヤナギの特徴です。同じような木には、シラカンバ、ケショウヤナギなどがあります。
またドロヤナギは、^{えだ}どちらかという^{はな}と枝が幹から^は離れて張り出します。



シラカンバ



ふつうのヤナギ
(オノエヤナギ)



ハルニレ



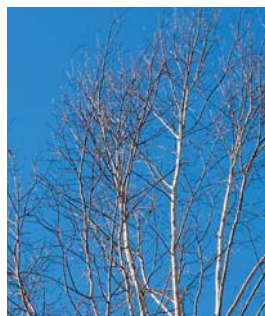
ケショウヤナギ

❖ 枝先の感じ — おおざっぱな枝ぶり ❖



ドロヤナギの枝ぶり

ドロヤナギは幹から枝先までの枝分かれが少なく、ハルニレのようにあまり細い枝にならず、ふつうのヤナギのようにしなやかにもなりません。どちらかというとおおざっぱな枝ぶりです。



シラカンバ



ふつうのヤナギ
(オノエヤナギ)



ハルニレ

❖ 葉っぱの感じ — 裏が白っぽい ❖



ドロヤナギの葉

ドロヤナギの葉はやや^{あつ}厚くて^{こうたく}光沢があり、表面にしわが^{うら}あること、^{とくちよう}裏が白っぽいことなどが特徴となります。



ふつうのヤナギ
(オノエヤナギ)



ハルニレ



ケショウヤナギ

もう少しドロヤナギをよく見ると

何となくドロヤナギっぽい木がわかったでしょうか。幹が白くてまっすぐ伸びて枝がおおざっぱで葉の裏が白っぽい、そんな木があったらまずドロヤナギでしょう。

でもドロヤナギの特徴はまだあります。ドロヤナギについての伝説もあります。

冬芽ー大きくて上向き



ドロヤナギの冬芽

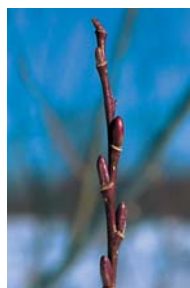


春に芽吹いたドロヤナギの若芽

冬に葉を落とした木は、死んでいるわけではありません。つぼみのような形をした「冬芽」の中に、春に芽吹く葉をしまい込んでいるのです。

ドロヤナギの冬芽は他の木と比べて大きく、多くは上に向かって伸びています。

ナイフで冬芽を割ると、中にはもう春色が見られます。



オノエヤナギ



ケショウヤナギ



オニグルミ

実と種ー綿毛にのせて種を飛ばす



開いて綿をふいたドロヤナギの実



開く前のドロヤナギの実

木は自分が動けないので、いろいろな形で種を広げようとします。ヤナギの仲間、綿毛に乗せて小さな種を飛ばします。(ほとんどが春から初夏)

特にドロヤナギの実には綿毛がたくさんつきます。そこで綿の代わりにふとんにつめたこともあるといいます。



ケショウヤナギ (初夏)



オニグルミ (秋)

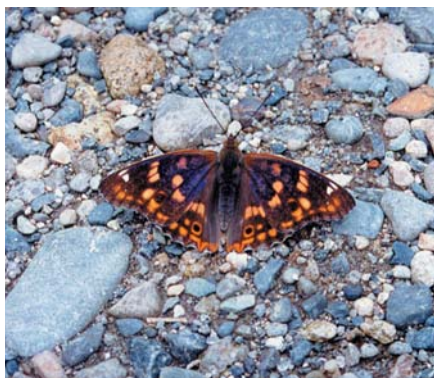


ハルニレ (初夏)



マユミ (秋)

✂ 集まる虫 — コムラサキの幼虫 ✂



幼虫の時、ドロヤナギを食樹とするコムラサキの成虫(オス) 〈撮影：吉原利之〉

ちよう ようちゆう えさ
蝶の幼虫は、餌とする葉の種類が決まっています。食草や食樹といひます。ドロヤナギはキペリタテハ、オオイチモンジ、コムラサキの幼虫の食樹となります。



リンゴシジミの幼虫(円内中央)と食樹のエゾノウミズザクラ(右) 〈幼虫の飼育と撮影：吉原利之。成虫の撮影：平林照雄〉

✂ 生える場所 — 川際の砂利原 ✂



春に川砂利が盛られた所とそこに生えたドロヤナギ(円内)

ドロヤナギは、洪水の後や工事の後のような、石がゴロゴロした砂利原に生えて育ちます。他の草や木がよく生える土の肥えたところでは、あまり育ちません。かといっていつも水をかぶるような所には、他のヤナギが生えてドロヤナギはあまり見られません。



ドロヤナギの若い林。土は薄く、すぐ砂利が出る所

✂ アイヌ伝説では — 化け物の生まれる木 ✂

ドロヤナギの「ドロ(泥)」は、材木として用いると柔らかくて役に立たない点が、泥のようであるから付けられたといひます。

アイヌ語では「ヤイニ=ただの木」あるいは別名「クルンニ=魔・住む・木」と、これも良い名は付けられていません。

ユカラ(アイヌの詩曲)には「国造りの神が最初にドロノキを地上に生やした。しかし人々が木をこすり合わせて火をおこそうとしても煙ばかり。それどころか痲瘡神、化け物、怪鳥が生まれてきた」というものがあるといひます。柱にしてもすぐ腐るということで、良い木とは見なされていないようです。

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「北海道 樹木圖鑑」佐藤孝夫 亞璃西社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗編集 柏書房 1996
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978
「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎 (社)北海道治山協会 2001

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場監修 北海道林業普及協会
「改訂増補 牧野 新日本植物圖鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館
「生育環境別 日本野性植物館」奥田重俊 編著 小学館
「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「平成12年度十勝圏道立広域公園自然環境調査報告書」アークコーポレーション(株) 北海道帯広土木現業所 2001
「アイヌ植物史」福岡イト子 草風館 1995
「天然林施業Q&A」石塚森吉ら 北方林業編 1988

使い道

を知る

木をこすり合わせる火起こし



✂ 食べる — 自然のエネルギーを体に



タラノキの若芽。いわゆるタランポ。天ぷらなどで。必ず芽をいくつか残す（5月）

虫や鳥だけでなく、私たち人間にとっても、木は食べる楽しみを与えてくれます。

ただし、若芽を採りつくして木を枯らしてしまうような人には、自然の恵みをもらう資格はありません。



ヤマゲタの実。甘くておいしい。果実酒もいい（7～8月）



ナワシロイチゴの実。少しえぐみがある。ジャムにもする（8月）



オニグルミの実。果肉を手でむくか土に埋めて腐らせ、中の種を割り、中身を食べる（9～10月）



カラフトイバラ（ヤマハマナス）の実。酸味があるが、それもまたよい（9月）

✂ 薬として — 用法用量を知って使うべし



チョウセンゴミシの実。房ごと日干しし、乾かしたものをもんで果実をばらして生薬（五味子）とする。咳止め、滋養強壮に

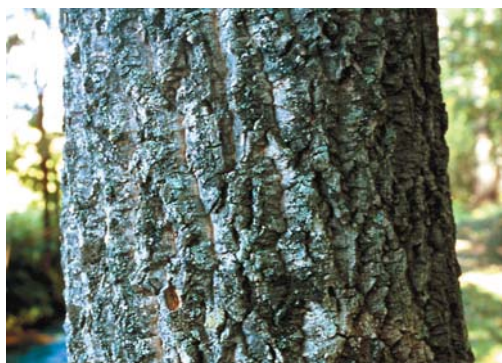
木にはまた薬の効果を持つものもあります。特にアイヌの人々は様々な木の実、木の根、木の皮などを薬として使っていました。

ただし、薬は毒でもあります。経験や教養なしでの利用は逆に調子を悪くさせる可能性もあるので、慎重に扱しましょう。



キタコブシの花。コブシの若いつぼみを漢方で辛亥（しんい）という。シト랄やシオネールという成分を含み、慢性鼻炎や蓄膿症などの鼻の病気に用いられるという。

❖ 染め物 — キハダの黄色は尊い色 ❖



キハダ。樹皮をめくると黄色い内皮がある

木はまた、布を織る糸となり（オヒョウの木など）その布を染める染料ともなりました。

キハダの木の皮をめくると中に黄色い内皮があります。これはおなかの薬ともなり、黄色の染料ともされました。アイヌの人々は神様に関係するものだけをキハダの染料で染めたといいます。

その他、クルミの樹皮や葉、実の果肉、またエゾノウヅミズザクラの樹皮などでも布を染めることができます。



オニグルミの実で草木染め



①まず果肉をきざむ



②果肉をお湯で煮出し、その液に布をつける



③ミョウバンなどの定着液につけ、干したらできあがり。かつては鉄分を含む泥炭地の水を定着液に使ったという

❖ その他、材木として、神事などのために ❖



アイヌの人々は、ヤナギを神事に使う「イナウ」に用い、同様に神に対する敬意からサケを殺す棒にも用いたという



ミズナラ。ヨーロッパでは家具材はオーク（ナラやカシの木）が一番だとされ、ウイスキーなどの樽はナラ材に限るという

もちろん木は昔から材木として、家や道具、舟など様々なものに加工され利用されています。

またアイヌ文化では、神事にキハダ、ミズキ、ヤナギを用いたといいます。



ノリウツギ（サビタ）。アイヌの人々はこの木でたばこパイプを作ったという。ヌルヌルとしたのりは髪をあらうのに用いられ、和紙をすくのにも使われたという

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「森で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

葉

を見る

イヌエンジュ



鳥の羽根のような葉 — これでも1つの葉



ヤチダモの葉

左の写真はヤチダモの葉ですが、一見、枝からたくさんえだの葉が出ているように見えます。ところが秋になり落葉の季節になると、この集まりごとと落ちます。

実はこれ全体で1つの葉ふくようっぱなのです。このように小さな葉（小葉）に分かれている葉を複葉ふくようといい、ヤチダモやオニグルミなど鳥の羽のようなものを羽状複葉うしじょうふくようといいます。



オニグルミの葉



キハダの葉



タラノキの葉（これでも1つの葉）



ヤマハギの葉



イヌコリヤナギ（複葉ではない）

イヌコリヤナギえだの葉は枝から直接1枚1枚生えているので複葉ふくようではありません。

このように、葉や芽が向かい合って生えることを「対生」とたいせい呼びます。

ちなみに、ヤチダモは対生ですが、オニグルミはちがいます。（→p18「冬の枝先を見る」）



ケヤマウコギの葉

大きなギザギザの葉



カシワの葉（裏に毛がある）

カシワもミズナラもどちらもドングリの木つらです。葉もよく似ていますが、カシワの葉の裏には小さな毛がいっぱい生えています。



ミズナラの葉

毛の生えた葉



ネコヤナギの葉（表裏に毛）



エゾノキヌヤナギの葉（裏に毛）

毛の生えた葉もあります。ヤナギの仲間の若葉^{わかば}には毛があるものが多いですが、特にネコヤナギとエゾノキヌヤナギはあとまで残ります。



カシワの葉（裏に毛が密生）

手のひらのような葉



ハリギリの葉

いわゆる葉っぱらしい形ではなく、切れ込みが大胆で、変わった形をした葉もあります。



カラギカエデの葉



ヤマブドウの葉



ヤマグワの葉



ケヤマウコギの葉

そのほかこんな葉も



エゾヤナギの葉
（托葉がある）



ナワシロイチゴの葉
（左は5つに、右は3つに分かれている）

他にも、葉の付け根にミニサイズの葉（托葉^{たよくよう}）を付けたもの（エゾヤナギなど）、複葉^{ふくよう}なのだけど分かれ方がいろいろ（ナワシロイチゴ）、付け根近くで段違いになっている葉（ハルニレ^{だんちが}）など、よく見ればいろいろな葉があります。



ハルニレの葉
（付け根に段差）

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊
行会 1992

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎 （社）北海道治山協
会 2001

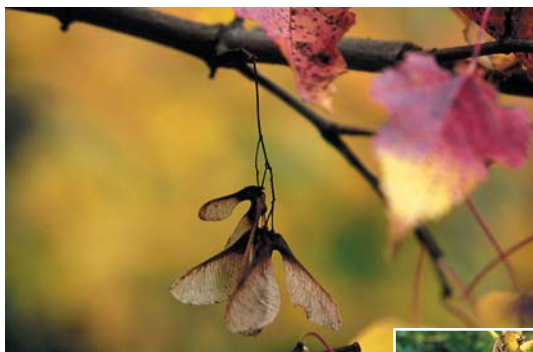
実や種

を見る



キハダ

羽のついた種 — 少しでも広がるために



カラコギカエデの種（9～10月）

左の写真はカラコギカエデの種です。1つをちぎり取って投げるとクルクルと回りながら落ちていきます。種の本体は根元の^{おっ}厚くなったところに入っていて、残りは羽の^{やくわり}役割をしています。

この羽は、風に乗って少しでも遠くへ種を広げるためのものです。

木は動くことができないので、種で生える場所を広げます。そのために、いろいろな工夫がされています。



ヤチダモの種（9～10月）



ハルニレの種。円内は熟したもの（6月）

ヤチダモの種の羽はじょうぶで、発芽まで2年かかります。種を取って植えても翌年には芽が出ません。

果実をつける — 食べてもらって広がる

果実をつける木は鳥や動物に食べてもらい、種がはき出されたり、フンといっしょに出されることで広がります。

ツルウメモドキなど冬にも実が残るものは、ヒヨドリなどにとって大切な食べ物となります。



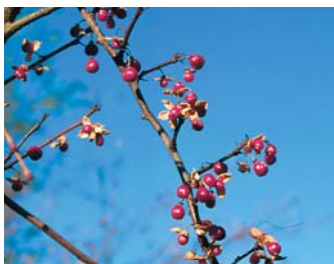
エゾニワトコの実（8～9月）



エゾノウミズザクラの実（7～8月）



ケヤマウゴギの実（9～10月）



ツルウメモドキの実（10月～冬）



ヤマグワの実。おいしい（7月）

 クルミやドングリ — 動物に埋めてもらう



オニグルミの実（9～10月）中に固い種（下の円）があり、リスやネズミはそれを割って中身を食べる。人が食べてもおいしい

エゾリスはオニグルミやドングリ（カシワやミズナラ）の実を冬に備えて土に埋めておきます。その中で食べられなかったものが春になって芽を出し、新しい木となって育ちます。

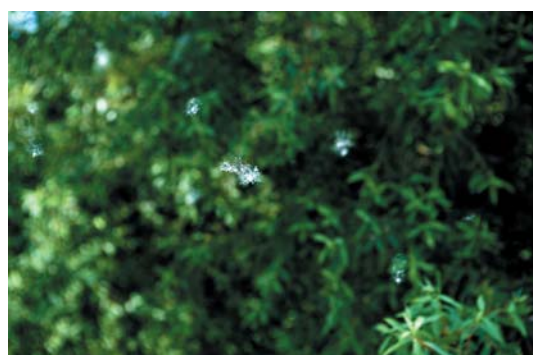


カシワ（9月）先が分かれて、「帽子」がささくれる



ミズナラ（9～10月）先が
とがっている

✂ 綿のついた種 — どこまでも飛んでいく？



綿毛を付けて風に舞うケシヨウヤナギの種（6月）

ヤナギは綿毛のついた小さな種を風に乗せて広げます。育つ場所を短期間で広げることができるので、別名「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれます。



開いたケシヨウヤナギの実



開いたドロヤナギの実

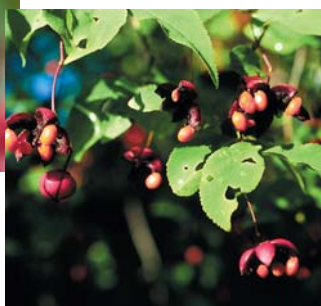
✕ そのほかこんな実や種も



ピンク色が鮮やかなマユミの実（10月）
くす玉のような実は丸っこい三角形（逆
ハート形）で、4つのカドのあるふくら
みに分かれる

マユミやツリバナの仲間の実はくす玉のように枝からぶら下がります。シラカンパ（シラカバ）やハンノキ、ケヤマハンノキなどは、房やかさの中に小さな種をたくさん詰めこんでいます。

他にもイヌエンジュやハシドイは種（マメ）の入ったさやをつ
け、キタコブシは袋ふくろのような実をつけます。



ツリバナの実（9～10月）
ボールのように丸い



シラカンバ(シラカバ)の穂(9~10月)
1つの穂の中に約550粒の種がある

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊
行会 1992

「治水の杜 ガイドブック」北海道開発局常広開発建設部 2002

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」 斎藤新一郎 (社)北海道治山協会 2001

「木と動物の森づくりー樹木の種子散布作戦」斎藤新一郎 八坂書房
2000

木の形

を見る



ツルウメモドキ

❧ 1本の幹がまっすぐ伸びる木



幹がまっすぐ1本伸びるシラカンパ（シラカバ）

木の形は非常に^{ひじょう}おおざっぱに分けて、^{えだわ}枝分かれする際、^{さい}どちらの枝も同じように太くなって^{みき}幹が何本にもなるものと、1本が太くなってまっすぐ立ち上がり、幹を持つようになるものがあります。

ここには幹が立ち上がるものを集めてみました。

ただし、こういった木も途中で折れたり^{とちゆう}斜めになっ^{なな}たり（ノ）



ドロヤナギの木の形



ケショウヤナギの木の形

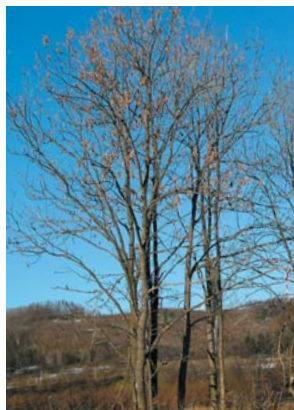
（ノ）たりすることで、幹が分かれていきますし、逆に枝が分かれるような木でも、^{みっせい}密生した林の中では幹が1本立ちすることもあります。

^{ひかくてき}比較的若くて、のびのびと育った時の目安としてください。

ドロヤナギがまっすぐ1本伸びた幹から枝を張り出しているのに対し、ハルニレが何本も幹を立ち上げ、細かい枝ぶりをしていることがわかります（右写真 ▶）



ハルニレ ドロヤナギ



ヤチダモの木の形



ハンノキの木の形

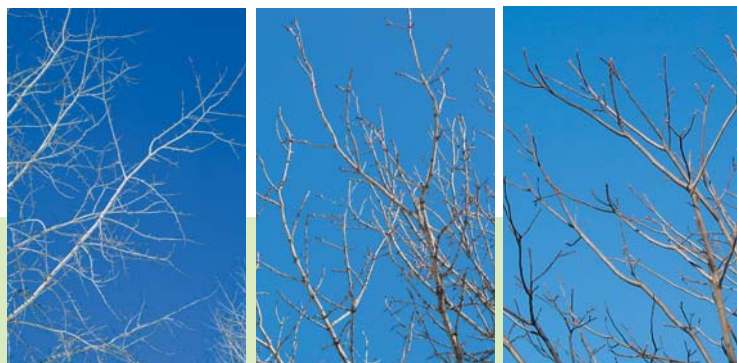


ケヤマハンノキの木の形



タラノキ。枝がない

❖ 枝先の感じ — ゴツいものや細かいもの ❖



ドロヤナギ(左)とヤチダモ(中)とオニグルミ(右)。あまり細かく枝分かれせず、どちらかというとおおざっぱな感じ

木の持つ^{ふんいき}雰囲気は、大まかな木の形と枝ぶり^{えだ}で左右されます。ドロヤナギ(ドロノキ)やヤチダモなどは枝先も太く、ゴツゴツした感じ。

ハルニレなどは先に行くほど細く^{みっせい}密生して細やかな感じ。

多くのヤナギはしなやかに伸びる枝先を持っていて、スマートな感じがします。

あなたはどう感じますか？



ハルニレ(左)とハンノキ(右)枝先になると非常に細く、細くなる



オノエヤナギ(左)とケショウヤナギ(右)ほとんどのヤナギはしなやかな感じの小枝をもつ

❖ そのほかこんな形の木も ❖



チョウセンゴミシはつる性の木。ヤマブドウ、ツルウメモドキなども



ナワシロイチゴは地面をはうように生える



フッキソウは高さ20～30cm。小さいけれど、冬も緑の葉をつける常緑樹

参考文献

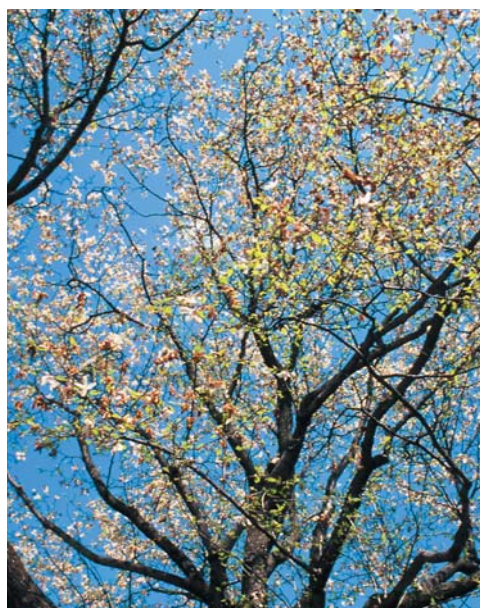
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「治水の杜 ガイドブック」北海道開発局帯広開発建設部 2002
「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎 (社)北海道治山協会 2001

ハルニレの花



花らしい花 — 林を彩り虫を呼ぶ



春の訪れを告げるキタコブシの花（4～5月）

花は私たちの目を楽しませてくれるだけではありません。虫たちを呼び寄せて雄しべの花粉を運んでもらったり、風に花粉を運んでもらったりします。そして雌しべで花粉を受けて、タネを作り出すという役割を持っています。

色や大きさだけでなく、花びらの数、形、花の付き方、咲く時期など様々な違いがあります。



強く良い香りをはなつエゾノウミズザクラの花（5～6月）雄しべが花びらより短い。花の大きさは約1.2cm



キタコブシ（4～5月）北海道ではマンサクと呼ばれ「まず咲く」の意味があるという。花びら（花弁）が6枚ある。花の直径約12cm



ノリウツギ（7～8月）ツブツブに見えるところが本当の花。約4mm。花びらに見えるのは「ガク」で、飾りの花（装飾花）である。約2cm



ホザキシモツケ（7～8月）約6mmの花が穂のようにたくさんつく。こういう花の付き方を、円錐花序（えんすいかじょ）と呼ぶ



ヤマハギ（8～9月）マメ科によく見られる形の花で、蝶型花と呼ばれる。長さ約1.5cm



イヌエンジュ（7～8月）ヤマハギと同じく蝶型花である。長さ約1cm



ナワシロイチゴ（5～6月）一番開く時でもガクだけ開いて花びらは閉じたままである。約2cm

✂ ヤナギの花 — 目立たないが春一番に咲き出す ✂

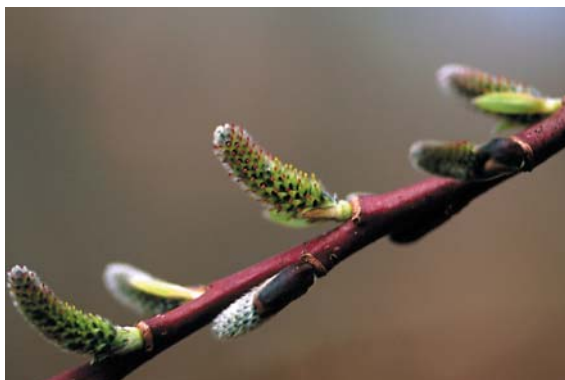


花芽が芽吹いたエゾヤナギ（2月）

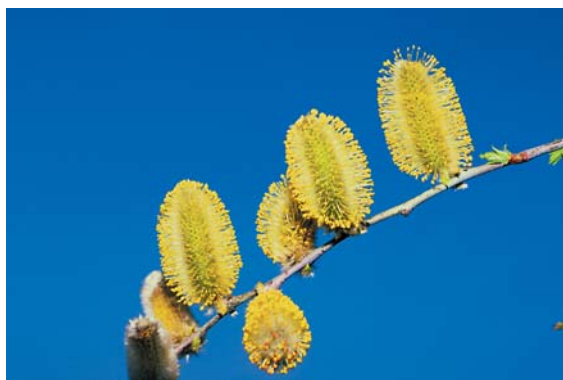
ようやく冬の寒さが少し和らぐ2月下旬～3月になると、ヤナギの枝には白い綿毛の穂が開き出します。これはヤナギの花芽が芽吹いた時、中の花を包んでいるものです。

ヤナギの花は花びらを持たず、細かな花が集まって、2～6 cmの動物の尾のような形（尾状花序）となり、虫に花粉を運んでもらいます。

花芽が開いた時の綿毛や開いた花を、ネコと呼び、この頃のヤナギを「猫柳」と呼んで生け花などに用います。ただ種名としてのネコヤナギ（→ p 11）というのもあるのでまちがえないで下さい。



オノエヤナギの雌花（4～5月）。花びらはなくても美しい



エゾヤナギの雄花（4～5月）。ヤナギの花「ネコ」は英語でも「キャトキン(catkin=子猫)」と呼ばれる

✂ オスの花・メスの花、オスの木・メスの木 ✂



ケショウヤナギはオスメスが別の木。開花すると（5月上旬）赤みを帯びた雄花のために、オスの木は茶色っぽく見える

ふつつ花にはオスの部分（雄しべ）とメスの部分（雌しべ）が両方ありますが、オスの花とメスの花が分かれている木も多くあります。それどころか、木自体がオスとメスに分かれているものも結構あるのです（雌雄異株）。オスの木には実や種はなりません。

ヤナギの仲間すべて、ヤチダモ、ヤマグワ、キハダ、ツルウメモドキなどが、オス・メス別の木となっています。



ケヤマハンノキは、オスの花（長く垂れている）とメスの花（その根元）が別。

参考文献

「山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花 離弁花①」茂木透 写真 山と溪谷社 2000
「山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花 離弁花②」茂木透 写真 山と溪谷社 2000

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道治山協会 2001
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜瑠西社 1990
「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

冬の枝先

を見る

ドロヤナギ（ドロノキ）



❧ いろいろな冬芽・変な「顔」・トゲ・毛・対生・・・ ❧



「変な顔」(葉痕)をもつオニグルミ

冬芽は、木々が冬の間にしている準備です。春に新たな葉や花となるのです(1つだけカッターで切ってみましょう)。葉を落としてしまった木も、冬芽の特徴をつかめば違いが見えてきます。

変わった形の冬芽や葉のあと、トゲのあるもの、毛のあるもの、向かい合って芽が生えているもの(対生=たいせい)などが注目点です。



トゲといえばタラノキ



ハリギリにもトゲがある



カラフトイバラにもトゲ



少し長い芽を持つハンノキ



毛のあるケヤマハンノキ



枝先で大きく毛におおわれているキタコブシの花芽



冬芽も枝も力強いイヌエンジュ



向かい合うエゾニワトコの冬芽
(対生=たいせい、という)



マユミも対生

参考文献

「冬芽でわかる落葉樹」馬場多久男 信濃毎日新聞社 1993
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990
「山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花 離弁花①」茂木透 写真 山と溪谷社 2000

「山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花 離弁花②」茂木透 写真 山と溪谷社 2000

生えている ところ

を見る

ヤチダモの実生



水際はヤナギ



水際のヤナギ林

一番水際に生えるのは、ヤナギの仲間です。土が肥えていなくても良く、水をかぶっても腐らず、とても成長が早い。そこで、ヤナギは川岸が崩れないように（護岸）するために、植えられることがあります。



水際のヤナギ幼木林

わずかに高い石原にケショウヤナギやドロヤナギ



ケショウヤナギの林。水際より若干高いところに生える

ケショウヤナギやドロヤナギは、ヤナギの仲間ですが、あまり水がかぶる場所には生えません。かといって他の植物がよく生える肥えた土にも生えず、河原の石がゴロゴロしたところで成長します。



ケショウヤナギやドロヤナギは石がゴロゴロしたところに根を張る

ドロヤナギ実生

ドングリは水から離れた高いところ



段丘の上にはカシワやミズナラが多い。円内は根を出したドングリ

ドングリの木であるカシワやミズナラは、水から離れた高いところで成長します。川の近くでは、小高い丘（段丘）の上によく生えています。

ヤチダモやハルニレは、少し湿った所に生えるようです。

河原では、洪水の後、まず湿気に強く、成長の早いヤナギが生えて林を作ります。ただヤナギは木としては寿命が早く、だんだん減っていきます。入れ替わりに、成長の遅いハルニレやヤチダモが育って、林の様子が変わっていきます。

参考文献

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」 斎藤新一郎 （社）北海道治山協会 2001
「北海道 樹木図鑑」 佐藤孝夫 亜細亜社 1990

「新装版 樹木根系図説」 刈住 誠文堂新光社 1987

虫・鳥・動物

を見る

リンゴシジミの食樹は
エゾノウミズザクラ



*食樹：チョウの幼虫が食べる決まった木のこと。草の場合は食草

クワガタの集まる木 - ハルニレ・ヤナギ



ハルニレの樹液を吸うミヤマクワガタ



ハルニレの葉。厚めでスジ（葉脈）がはっきりしていて、付け根に段差がある



ハルニレの幹。木の皮（樹皮）は不規則にタテに裂ける



ハルニレの葉の付き方。小枝に左右交互につく（こういう付き方を互生という）



モンズメバチ。横にはハエも。ハルニレの樹液にはいろいろな虫が集まる

クワガタは樹液を餌にしていますが、どんな木の樹液でもいいわけではなく、好みの木があります。特にハルニレやヤナギの樹液が好きだそうです。

クワガタ取りの時にはこの2種類の木をマークしましょう。ヤナギは細い葉が特徴です。（→p 2 参照）

チョウ - 幼虫は決まった葉をえさにする



冬芽→

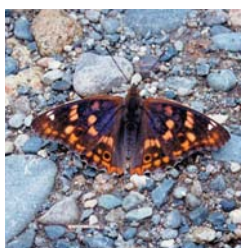
卵

キタアカシジミの成虫
〈撮影：吉原利之〉

〈飼育・撮影：吉原利之〉

カシワの冬芽とキタアカシジミの卵。春、幼虫がかえると、ふくらみ始めた芽の中に入り込む

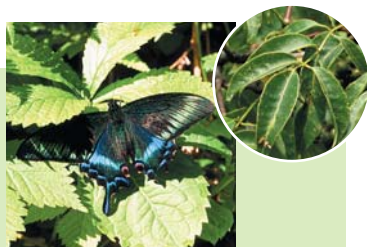
チョウの幼虫は、それぞれエサにする葉っぱの種類が決まっています。草の場合は食草、木の葉の場合は食樹といわれます。いくつか食樹を紹介します。



〈撮影：吉原利之〉



コムラサキ(左)の食樹はオノエヤナギ(上)、エゾノキヌヤナギ、ドロヤナギなどのヤナギの仲間



ミヤマカラスアゲハ。食樹は北海道ではキハダだけ（円内）



シートテハ。食樹はハルニレ（円内）オヒョウなど



ツバメシジミ。食樹はヤマハギ（円内）食草として多くのマメ科の草

❖ キツツキと木 — 虫食いの木や枯れ木も大切 ❖



アカゲラは十勝では最も一般的なキツツキ



頭の赤マークが大きいオオアカゲラ

虫に食われることは木にとってはマイナスです。枯れてしまえば木の命は終わりです。

しかし多くのキツツキにとって、木の中を食っている虫は重要なエサです。

また木に穴を開けて巣をつくる時には、枯れていたり、生きていてもしんにバイ菌が入っているような木が必要となります。

健康でない木も生き物世界では大切なのです。

また、鳥以外にもエゾモモンガやエゾリスも、樹洞を巣やねぐらにすることがあります。



枯れ木に作られた巣穴から顔をのぞかせるコゲラ



ヒナにエサを運ぶコゲラの親



巣穴から少しだけ顔をのぞかせるエゾリス

❖ リスはクルミの管理人？ 召使い？ ❖



エゾリスとクルミの食べあと（円内）エゾリスは冬眠しないので、秋にクルミを土に埋めて保存しておく



秋に埋められた種から出たオニグルミの実生

エゾリスはシマリスと違い冬眠しないので、秋にクルミやドングリを土の中に埋めておきます。その中で食べられなかったものは春に芽を出します。（→p 9 参照）

エゾリスはクルミにとって、タネを新しいところに埋めてくれるありがたい動物なのです。



エゾアカネズミと食べあと（円内）割らずに穴を開けている

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「自然観察シリーズ12 日本のチョウ」海野和男 青山潤三 小学館 1981

「日本動物大百科 第4巻 鳥類Ⅱ」日高敏隆 監修 平凡社 1997
「フィールドガイド 日本の野鳥」高野伸二 日本野鳥の会 1982

さわって

みる

トゲをもつカラフトイバラ



✂ さわってわかることもある ✂



独特の形をしたヤマグワの葉。さわった感じもまた独特

ヤマグワの葉

独特の形の葉どくとくっぱを見つけたら、つかんでみて下さい。他のものとは感かんしよく触ちげがまるで違います。



ヤマグワの木はあまり大きくならない

エゾノバッコヤナギの葉

裏に毛みつせいが密生している葉はおどろくほど気持ちがいいものです。

エゾノバッコヤナギはヤナギにしては葉どくとくが大きいので、独特のスペース感がたっぷり味わえます。



裏に毛が密生しているエゾノバッコヤナギの葉



エゾノバッコヤナギの枝先



キハダの木



キハダの樹皮。内皮は鮮やかに黄色い



キハダの葉

キハダの樹皮

見るからにゴツゴツしたキハダの木。ところがさわってみると意外やわ、意外かんしよく、柔らかな感触です。

見慣れないと、葉の形な（写真上）や付き方たいせい（対生）からヤチダモなどとまちがえますが、さわってみればすぐわかります。

においを嗅ぐ

キタコブシ



花のにおい — エゾノウワミズザクラ



満開のエゾノウワミズザクラ。姿よりにおいが先に感じられることもしばしばある

5～6月、平地の林縁部を歩いていると、姿が見えなくても、エゾノウワミズザクラのえも言われぬいいにおいがしてくることがあります。



エゾノウワミズザクラの花。アイヌ語でキキンニ。強い香気で病魔を追い払うという。

葉のにおい — エゾニワトコはちょっと嫌なにおい

エゾニワトコかな？ と思ったら葉を指先でもんで、そっとにおいを嗅いでみて下さい。二度と嗅ぎたくないと感じる人も多いと思います。

アイヌ語ではソコンニといますが、「フンをつけている木」の意味だそうです。



エゾニワトコの葉



赤い実をつけたエゾニワトコの木。あまり大きくない

実のにおい — キハダの実はミカンのにおい



キハダの実。秋になると熟して黒くなる



キハダ

キハダはミカンの仲間です。実を取ってにおいを嗅ぐと、ミカンのような(柑橘系の)香りがします。

アイヌ語ではキハダの実のことをシケレペ(ぬるぬるした実)と呼びました。取ったあと乾燥させて保存し、一年を通じて食糧や薬として欠かせないものだったといひます。

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「治水の杜 ガイドブック」北海道開発局帯広開発建設部 2002

植えてみる

「盆栽」づくり



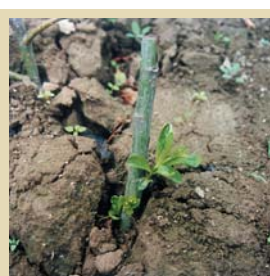
✂ クルミやドングリを植えてみる ✂



自分たちの手で森づくりをしませんか。

エゾリスは冬のエサのためにクルミを土に埋めておくのですが、食べられなかったものは芽を出して木になります(→p.13, 21)。エゾリスにならってオニグルミの実を拾い、いくつかは割って食べ、残りを埋めてみましょう。次の年、結構よく芽が出ています。

ヤナギの枝を切り取って土に埋めるのも、簡単な林づくりです。(ただしヤナギは細い葉のものを選びましょう)



オニグルミの実を拾って(左)種を土に埋めておく。右は翌年発芽したオニグルミの木。当たり前だが、オニグルミの実はオニグルミの木の下に落ちている

ヤナギの枝を切って埋めるだけでも、木が育つ

✂ 子どもの木で小さな林づくり ✂



子どもの木で「盆栽」づくり。自分の世界を作るうちに、木の持つ雰囲気や特徴が見えてくる

林の中には大きな木から落ちた種が育ち始めた、子どもの木がたくさんあります。

そんな木を掘り出して、植木ばちなどに植えて見ませんか。何本か植えればミニチュアの林ができあがります。

盆栽や箱庭は日本の古くからの文化ですが、それ程力を入れずに、自分の世界を作りましょう。

草の中に埋もれていて、小さいので草とまちがえてしまいがちですが、別に草でもかまいません。

ただし、命を持っているものです。大切に育てるか、どこかに植え替えてあげましょう。(写真は道立十勝エコロジープークの自然観察会での様子)

道立十勝エコロジープーク：十勝川中流域にある、自然と人間との共生の理念を受けとめその実現を目指す公園。道立公園



林の中に出かける。あまり草が茂らないうちのほうが見つけやすい



引き抜かないでスコップを使い、土ごと根を掘り出す



鉢に土を入れ植える。本数や方向、草やコケでのアレンジなど工夫して

✂ 苗を作ってから植える ✂



マユミの種取り。木によって実をつける時期、種の熟す時期がちがうので調べてから（「治水の杜ガイドブック」参照）

タネを取り、そのまま植えてもいいですが、風に飛ばされたり鳥や動物に食べられないように、苗を作ってから植える方法もあります。（特に小さなタネの場合）

多くのタネは秋にとれますが、ハルニシなどは6月に、ヤマグツなどは7～8月にタネが熟します。

取ったタネを発泡スチロール箱にまいて育て、少し伸びたらあとで植えやすいようにビニールポットに植え替えておきます。

写真は堤防を林にする「治水の杜づくり」の様子です。（「治水の杜ガイドブック」「森をつくらう 治水の杜づくりハンドブック」参照）



種植え。底にいくつか穴を開けた発泡スチロール箱に土を入れ、果肉取りなどの処理をした種を植える



種植え後。乾燥などを防ぐために砂利をかける。早い木で数週間、遅い木（ヤチダモ）で2年後に発芽

しばらく待つ（半年？1年？育つまで）



生長した苗。野外に放置したままでよい。ただし、5cmほどに生長したところで園芸用のビニールポットへ移植してある



苗を植える。乾燥や他の植物が生えることを防ぐため、表面に砂利などを敷いておき（マルチング）かき分けて植える

治水の杜：治水の杜づくり事業は、堤防に沿って十勝にある木を植樹し河川林をつくる、帯広開発建設部の事業。これら河川林は洪水時に氾濫をおさえる他、緑のネットワークを形成し、河川環境の整備と保全にも寄与する。

参考文献

「治水の杜ガイドブック」帯広開発建設部 2002（インターネットで
<http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/tisui/pamphlet/pamphlet.html>）

「森をつくらう！治水の杜づくりハンドブック」帯広開発建設部 2000

「住民参加による自然林再生法－生態的混播法の理論と実践」岡村俊
邦（財）石狩川振興財団 1998

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990

伝説を知る

種から芽を出したヤチダモ



❖ 言い伝えの中にある真実 ❖

木には様々な伝説があります。これは、昔の人々が、自然に対しておそれと尊敬^{そんけい}の気持ちを持ち、何より自然を身近に感じていたからでしょう。伝説には、その木の持つ特徴や人との関わりが色濃^こく現れています。

そして、伝説から自然とのつきあい方を学び、人としての生き方も学んでいけます。ここでは「アイヌ植物誌^し」（草風館 1995）の著者である福岡イト子^{ちよ}さんから、ヤチダモの木に関するアイヌ伝説を紹介していただいています。



ヤチダモ

ヤチダモの木の神が自分の体験を語る物語

〈ヤチダモ=ピンニ〉

滝の上にいると川下から枯れ枝^かを踏み鳴らし、若いオキクルミがまさかりと斧^{おの}を持って私（ヤチダモの木の神）のそばにやって来た。

「おい、心がけの悪い腐れ木よ。お前の固い肉を引っ込めて柔らかい肉を出したなら、舟にこしらえて交易^{こうえき}に行ってくるからな。この腐れ木よ」と言いながら根元へ来た。

私は腹^{はら}が立ってわざと柔らかい肉^かを隠して固い肉を出してやると、若いオキクルミは私をたたきまくったので刃^はがガタガタになり、悪口^{わるぐち}を言いながら行ってしまった。

まだどこからかサマイエクル（国造りの神）が来て礼拝しながらこう言った。

「ヤチダモの木の神よ。あなたの柔らかい肉を出して固い肉を引っ込めてくれたなら、美しい舟にこしらえて交易の品をいっぱい持ってお礼にまいります」

私はその心に感動し、私の固い肉を引っ込めて柔らかい肉を出してやった。サマイエクルは約束どおり酒とイナウをいっぱい作ってお礼に来た。私もおみやげをたくさんもらったお陰で神のなかでもより重い神となった。

（杉村キナラブック口伝「けなしたオキクルミには肉を固くし、誉めた国造りの神には肉を柔らかくした、ヤチダモの自叙」『アイヌ民話全集 1 神謡編 1』中川裕 校訂、大塚一美 編訳 北海道出版企画センター 1990 より、福岡イト子 要約）

舟の材料をいただくには、まず木の神に礼をつくしてお願いをする。すると木の神は心のよい者には喜んで「柔らかい肉」を差し出して切りやすくし、心のよくない者にはわざと「固い肉」を出して切られまいとする。

ヤチダモの木の神には感情もあれば、人の心をよむ能力も持っている。自分の「肉」が舟となって人間の役に立ったヤチダモの神は、この世での使命を果たして神の国へ行った。

上川地方の言い伝えによれば、ヤチダモの木で舟を作ると豊漁^{ほうりょう}に恵まれるという。

（「アイヌ植物誌^し」福岡イト子^{ちよ} 著 草風館 1995 より、著者書き下ろし）

イナウ（木幣）アイヌがカムイに祈りを捧げる時に用いる祭具。ヤナギやミズキ、キハダの木を削って作られることが多い。

（「北の生活文庫 第2巻 北海道の自然と暮らし」関秀志・矢島睿・古原敏弘・出利葉浩司 北海道新聞社）



晩秋のヤチダモ

名前

を知る



初夏、新緑の河畔林

❖ キハダ — 皮の内側が黄色いから「黄肌」

この冊子は、木の名前を覚えようという考えでは作られていません。個々の木の名前をわかるようになるうとも考えていません。それより、いろいろな見方をわかることで、少しでも木を身近に感じてもらうとしています。

しかし、名前がつまらないわけではありません。名前にはその木に対する人の思いが込められています。その木の特徴が表されています。名前の持つ思いがけない意味を知ると、また少し、木を身近に感じられるはないでしょうか。

木の名前	名前の意味	アイヌ語名
オノエヤナギ	「オノエ」は「峰の上（おのえ）」で、四国や本州では高い山に生えることからつけられた。 「ヤナギ」は ①古く中国で矢を作ったことから矢の木とよばれ、それが変化した ②生長しやすいことから「彌長（イヤナガ）」と呼ばれ、そこから ③魚を捕るための梁（やな）を作ったことから「梁木（やなぎ）」と呼ばれた ④枝が柔らかくしなすることから「柔菱木（やわなぎ）」と呼ばれそこからなどの説がある。	スス。 秋、黄ばんだオノエヤナギの葉がぽろぽろ川に散り尽くす頃、シシャモが群れをなして遡上する。 シシャモのことをアイヌ語で「ススハム」といい、「シシヤモ」の語源だという。
ヤチダモ	「ヤチ」は「谷地」または「野地」と書き、湿地を表す。 「タモ」は ①「霊＝タマ」で樹霊信仰から ②トネリコの仲間は材ががねばり強くて「撓む（たわむ、たむ）木」であることからという説がある。	ピンニ
カシワ	古代、飯を炊（かし）ぎ盛るのに多く用いられたので、「カシキ・ハ」と呼ばれたことから。 また、「カシワ」は食べ物を盛る器に使われる木の総称でもある。	コムニ（ドングリの粒のなる木）
ハルニレ	「春に花をつけるニレ」という意味。 「ニレ」は、皮をはがすとヌルヌルするので「滑れ（ぬれ）」と呼んだことからだという。	チキサニ（我ら・こする・木＝火を起こす木）

参考文献

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「北の生活文庫 第2巻 北海道の自然と暮らし」関秀志・矢島豊・古原敏弘・出利葉浩司 北海道新聞社 1997

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「森で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及会 1996

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野幹夫・大場秀草・西田誠 編集 北隆館 1989

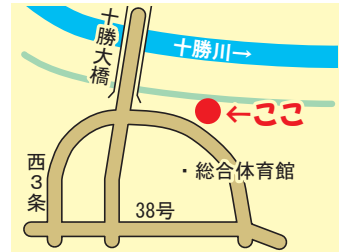
もっとくわしく知るために

(開館日時その他の内容は変更される場合があります)

十勝川インフォメーションセンター (入館無料)

十勝川の水質・十勝川に棲んでいる生きた魚・多自然型工事の紹介・水辺の楽校の情報・川でのイベント紹介、十勝川のパソコンクイズもあります。身障者らにも配慮したユニバーサルデザインによる施設づくりがされています。(お問い合わせは 0155-23-2160 まで)

また「川の駅」十勝川(帯広市指定・たびさき案内人)があります。ここでは、自然環境体験活動の「何でも相談所」として、川の学習や活動、川遊びなどに関する情報を提供しています。

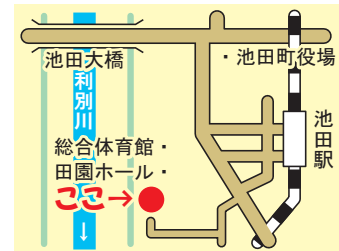


十勝川インフォメーションセンター
開館: 9時から17時 休館: 月曜・年末年始 入館無料 ☎0155-23-2160

十勝川資料館(池田町) (入館無料)

池田町の利別川沿いには、十勝川流域の自然・歴史・災害などについて模型やビデオを通して学べる「十勝川資料館」があります。

(お問い合わせは 01557-2-5713 まで)



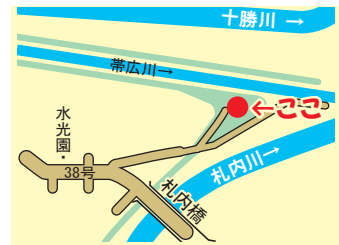
十勝川資料館
開館: 9時から17時 休館: 火曜・年末年始 入館無料 ☎01557-2-5713

北海道エールセンター

－ 子どもの水辺 地域拠点センター (入館無料)

十勝地方で川に関する様々な活動をしてきた人々の、ネットワークとノウハウを活かし、流域をフィールドとした「情報拠点」「活動拠点」「防災拠点」を創出することを目的とした地域センターです。

センターには、訓練施設、研修室(2Fリーダー研修・会議室)、救護室、キャンプ用の炊事施設、資材施設(貸出用カヌー・ラフティング・Eボート・ライフジャケット・ヘルメット等)、防災訓練施設、などが置かれます。(平成16年4月より)



北海道エールセンター(治水の森)
開館: 7時~18時(夏)・9~16時(冬)
休館: 月曜・年末年始 入館無料
☎0155-20-3755

川や自然に関する役所

帯広開発建設部 治水課

十勝川水系の大きな川(十勝川、利別川、札内川、音更川)とこれらの川に流入する中小河川の下流部を管理しています。環境調査データなどについてもお問い合わせ下さい。

帯広市西4条南8丁目
0155-24-4121(代表)

帯広土木現業所 治水課

十勝川水系の中小河川や大きな川の上流部と歴舟川など十勝川水系以外の川を管理しています。

帯広市東3条南3丁目1
0155-24-3111(十勝合同庁舎代表)

十勝支庁 環境生活課 自然環境係

ケガをした野生鳥獣を発見した時、どうしたらいいかについての問い合わせに答えてくれます。

帯広市東3条南3丁目1
0155-24-3111(十勝合同庁舎代表)

博物館など

帯広百年記念館

帯広の動植物情報、考古学情報、歴史情報を教えてくれます。帯広百年記念館友の会はさまざまな行事を行っていて、会報「とかちぼうず」の発行もしています。

帯広市緑ヶ丘2番地
開館：9時～22時（展示室は9時半～16時半）
休館：月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始
0155-24-5352

帯広市野草園

緑が丘公園内のウツバツ川河畔林の自然を生かして作られた、帯広・十勝の植物を観賞できる野外博物館です。年3回、野草園運営委員会便り「くろ百合」を発行しています。

帯広市緑ヶ丘2番地（帯広市緑ヶ丘公園西側）
開園：9時～16時
休園：11月から4月28日までの冬期間
0155-24-2434（帯広市児童会館内）

ひがし大雪博物館

上士幌町と大雪山国立公園の動植物情報を教えてくれます。ひがし大雪博物館友の会があり、観察会などの行事やニュースレターを配布しています。

上士幌町字糠平
開館：9時～17時
休館：4月～10月は月曜、11月～3月は月曜・祝日
01564-4-2323

ポロシリ自然公園

札内川水系戸蔭別川に平成14年7月からオープンした公園です。ここでは、自然体験施設が開設されていますので、戸蔭別川流域を利用した自然観察などの野外活動ができ、指導も受けられます。60人収容の研修室もあり、宿泊しての活動も可能です。

帯広市拓成町第2基線2-7
開設期間：6月1日～9月30日
管理人駐在時間：9:00～17:00、7・8月の週末及び夏休み期間中は6:00～23:00
現地管理棟 0155-60-2000
帯広市観光課 0155-24-4111

特定非営利活動法人 帯広NP028サロン「まちの駅」十勝

自然体験活動に関する情報提供を行っています。

帯広市西1条南28丁目4番地
0155-25-1455

日本野鳥の会 十勝支部

野鳥に関することを教えてくれます。年数回十勝管内で探鳥会を実施しています。年4回、会報「野鳥便り」を発行します。

事務局：帯広市東6条南7丁目
0155-23-0660（アークコーポレーション内）

※ その他、各市町村の施設でも川や生き物、歴史の情報を得ることができます。各市町村教育委員会などにお問い合わせください。

参考となる本

わかりやすい

「北海道 樹木図鑑」 佐藤孝夫 亜璃西社
「新版 北海道の樹」 辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会
「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」 北海道立林業試験場 監修 北海道林業改良普及協会

もっと詳しく

「山溪ハンディ図鑑3・4 樹に咲く花 離弁花①・②」 茂木透 写真 高橋秀男・勝山輝男 監修 山と溪谷社
「冬芽でわかる落葉樹」 馬場多久男 信濃毎日新聞社
「図説 花と樹の大事典」 木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房

その他

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」 帯広百年記念館 編集・発行
「治水の杜ガイドブック」 北海道開発局帯広開発建設部

（各項目で挙げた「参考文献」もご参照ください。なお絶版などの際はご容赦ください）

さくいん（写真のある生き物中心）

ア行

アカゲラ	21
イヌエンジュ	10, 16, 18
イヌエンジュ（花）	16
イヌエンジュ（冬芽）	18
エゾアカネズミ	21
エゾニワトコ	12, 18, 23
エゾニワトコ（葉）	23
エゾニワトコ（冬芽）	18
エゾニワトコ（実）	12
エゾノウミズザクラ	7, 12, 16, 23
エゾノウミズザクラ（花）	7, 16, 23
エゾノウミズザクラ（実）	12
エゾノカワヤナギ	2
エゾノカワヤナギ（葉）	2
エゾノキヌヤナギ	2, 3, 11
エゾノキヌヤナギ（雄花）	3
エゾノキヌヤナギ（葉）	2, 11
エゾノキヌヤナギ（実）	3
エゾノキヌヤナギ（雌花）	3
エゾノバッコヤナギ	2, 22
エゾノバッコヤナギ（葉）	22
エゾヤナギ	2, 11, 17
エゾヤナギ（雄花）	17
エゾヤナギ（葉）	2, 11
エゾリス	21
オオアカゲラ	21
オニグルミ	6, 8, 9, 10, 13, 15, 18, 21, 24
オニグルミ（枝）	15
オニグルミ（種）	13
オニグルミ（葉）	10
オニグルミ（冬芽）	6, 18
オニグルミ（実）	6, 8, 9, 13
オニグルミ（実生）	21, 24
オノエヤナギ	2, 3, 4, 5, 6, 15, 17, 20, 26
オノエヤナギ（枝）	5, 15
オノエヤナギ（雄花）	3
オノエヤナギ（樹形）	5
オノエヤナギ（葉）	2, 5
オノエヤナギ（冬芽）	6
オノエヤナギ（雌花）	3, 17

カ行

カシワ	4, 10, 11, 13
カシワ（樹皮）	4
カシワ（葉）	10, 11
カシワ（実）	13
カラコギカエデ	11, 12
カラコギカエデ（種）	12
カラコギカエデ（葉）	11
カラフトイバラ	8, 18, 22
カラフトイバラ（冬芽）	18
カラフトイバラ（実）	8
キタアカシジミ	20
キタアカシジミ（卵）	20
キタコブシ	8, 16, 18, 23
キタコブシ（花）	8, 16, 23
キタコブシ（花芽）	18
キハダ	9, 10, 12, 20, 22, 23

キハダ（樹皮）	9, 22
キハダ（葉）	10, 20, 22
キハダ（実）	12, 23
ケショウヤナギ	2, 4, 5, 6, 13, 14, 15, 17, 19
ケショウヤナギ（オス）	17
ケショウヤナギ（枝）	15
ケショウヤナギ（樹形）	5
ケショウヤナギ（樹皮）	4
ケショウヤナギ（種）	13
ケショウヤナギ（葉）	5
ケショウヤナギ（林）	19
ケショウヤナギ（冬芽）	6
ケショウヤナギ（実）	6, 13
ケショウヤナギ（実生）	19
ケショウヤナギ（メス）	17
ケヤマウコギ	10, 11, 12
ケヤマウコギ（葉）	10, 11
ケヤマウコギ（実）	12
ケヤマハンノキ	14, 17, 18
ケヤマハンノキ（花・オス）	17
ケヤマハンノキ（花・メス）	17
ケヤマハンノキ（冬芽）	18
コクワガタ	3
コゲラ	21
コムラサキ	7, 20
コムラサキ（オス）	7, 20

サ行

シータテハ	20
シラカンバ（シラカバ）	4, 5, 13, 14
シラカンバ（枝）	5
シラカンバ（樹形）	5
シラカンバ（樹皮）	4
シラカンバ（実）	13

タ行

タチヤナギ	2
タチヤナギ（葉）	2
タラノキ	8, 10, 14, 18
タラノキ（葉）	10
タラノキ（冬芽）	18
タラノキ（若芽）	8
チョウセンゴミシ	8, 15
チョウセンゴミシ（実）	8
ツバメシジミ	20
ツリバナ	13
ツリバナ（実）	13
ツルウメモドキ	12, 14
ツルウメモドキ（実）	12
ドロヤナギ（ドロノキ）	2, 4, 5, 6, 7, 13, 14, 15, 18, 19, 26
ドロヤナギ（枝）	5, 15
ドロヤナギ（樹皮）	4
ドロヤナギ（葉）	5
ドロヤナギ（冬芽）	6, 18
ドロヤナギ（実）	6, 13
ドロヤナギ（実生）	7, 19
ドロヤナギ（若芽）	6

ナ行

ナワシロイチゴ	8, 11, 15, 16
ナワシロイチゴ (葉)	11
ナワシロイチゴ (花)	16
ナワシロイチゴ (実)	8
ネコヤナギ	11
ネコヤナギ (葉)	11
ノリウツギ	9, 16
ノリウツギ (花)	16

ハ行

ハリギリ	11, 18
ハリギリ (葉)	11
ハリギリ (冬芽)	18
ハルニレ	4, 5, 6, 11, 12, 14 15, 16, 20, 26
ハルニレ (枝)	5, 15
ハルニレ (樹皮)	4, 20
ハルニレ (種)	12
ハルニレ (葉)	5, 11, 20
ハルニレ (花)	16
ハルニレ (実)	6
ハンノキ	14, 15, 18
ハンノキ (枝)	15
ハンノキ (冬芽)	18
フッキソウ	15
ホザキシモツケ	16
ホザキシモツケ (花)	16

マ行

マユミ	6, 13, 18
マユミ (冬芽)	18
マユミ (実)	6, 13
ミズナラ	9, 10, 13
ミズナラ (樹皮)	9
ミズナラ (葉)	10
ミズナラ (実)	13
ミヤマカラスアゲハ	20
ミヤマクワガタ	20
モンズズメバチ	20

ヤ行

ヤチダモ	10, 12, 14, 15, 19
ヤチダモ (枝)	15
ヤチダモ (種)	12
ヤチダモ (葉)	10
ヤチダモ (実生)	19
ヤナギの埋枝	24
ヤマグワ	8, 11, 12, 22
ヤマグワ (葉)	11, 22
ヤマグワ (実)	8, 12
ヤマハギ	10, 16, 20
ヤマハギ (葉)	10, 20
ヤマハギ (花)	16
ヤマブドウ	11
ヤマブドウ (葉)	11

ラ行

リンゴシジミ	7, 20
リンゴシジミ (幼虫)	7, 20



ハルニレの花

十勝の川の生き物「見る角度」ガイド ①

いろんな見方で木に会いに行こう

2004年（平成16年）2月 初版発行

発 行：北海道開発局 帯広開発建設部

〒080-8585 北海道帯広市西4条南8丁目

Tel.0155-24-4121（代表） Fax.0155-27-2377

編 集：財団法人 北海道開発協会

〒001-0011 北海道札幌市北区北11条西2丁目

セントラル札幌北ビル

Tel.(011)709-5219 Fax.(011)709-5227

いろんな見方で

木に会いに行こう

あしたを創る、今の知恵
北海道開発局



帯広開発建設部

使い道を知る

葉を見る

実や種を見る

木の形を見る

花を見る

冬の枝先を見る

生えているところを見る

虫・鳥・動物を見る

さわってみる

においを嗅ぐ

植えてみる

伝説を知る

名前を知る